



島根県立横田高等学校 創立百周年

横田高等学校の始まり そして、現在

島根県立横田高等学校は、大正8年に仁多郡立農学校として開校されました。その後、昭和23年に現在の県立横田高等学校と校名変更され、農業・畜産・普通科を有する高校となりましたが、昭和40年以降、普通科のみの高等学校となりました。

戦後の混乱期、高度成長期、少子高齢化など大きな社会変革の中で、卒業生は13,350人（平成31年3月31日現在）に上り、全国各地で活躍されています。

そして現在、教育魅力化校として、奥出雲町と密接に連携し、地域で学び社会を支える人材育成を行っています。1年生は、地域の抱える課題について考える「奥出雲学」を学びます。そして、2年生では、「奥出雲町の魅力を発信すること」をミッションに掲げ、地域の方の協力を得ながら、仮想会社「だんだんカンパニー」を運営しています。

総合コースは、町が誇る「特産品」を活かし、商品の企画・開発・生産・販売を行っています。進学コースは、「地域課題解決」に取組み、青山学院大学で発表やディスカッションを行っています。

近年、「しまね留学」として、地元を離れ高校3年間を横田高校で過ごす県外・町外出身生徒も増えています。

11月2日秋晴れの中、島根県立横田高等学校体育館で、創立百周年記念式典が行われました。全校生徒・教職員をはじめ、島根県知事、町長など地元関係者のほか、多くの出席がありました。町長からは「私自身も出身校で、長い歴史を皆さんと振り返られることは嬉しい。地域に根ざした高校として発展してほしい。」と挨拶がありました。

また、9月15日には記念イベントとして、ホッケーの強豪校・岐阜総合学園高校と岐阜各務野高校を招き、招待試合があり、良きライバル同士の交流が行われました。



ホッケー招待試合参加者



式典の様子



ふじはら けいた
生徒会長 藤原 恵太さん
(奥出雲町出身3年生)

県外出身の友達がたくさんできました。

近隣の高校へ進学した同級生も多いと思いますが、横田高校で過ごしてよかったことは何ですか？

1年時の「奥出雲学」では、空き家対策などの地域の課題や仁多乃炎太鼓などの文化について学びました。そして、2年時の「だんだんカンパニー」では米を作り、東京で販売しました。この2つの授業では、地域の人とたくさん交流しました。地域のみなさん方が、いつでも僕たちを気にかけてくださり、サポートしてくださった事がとても嬉しかったことです。

横田高校で新しい出会いはありましたか？

中学校までは奥出雲町出身の人ばかりでしたが横田高校では県外出身者もたくさんいて、新しい友達できました。知らない土地の話をし、奥出雲町に在ながら色々な交流ができて楽しいです。



こだに ちかの
小谷 実乃さん
(鳥取県日南町出身3年生)

卒業後も奥出雲町で働きます。

横田高校で3年間過ごしてみてもどのように思いますか？

地元を離れて進学し、新しい友達作りを通してメンタル面が強くなったり、生徒会活動に参加をし、積極的になれました。また、「奥出雲学」や「だんだんカンパニー」などの地域学習を深くできたことがとても良かったです。

寮生活はどのようなものか教えてください。

分からないことが多かったのですが、その都度、先輩や友達が教えてくれるので安心です。そして、時間がきちんと決められているので、勉強も集中することができました。

卒業後は、どうされますか？

奥出雲町にある企業に就職します。授業を通して地域の人との交流ができたので、このつながりを大切にしていきたいです。

横田高校に進学したのは何故ですか？

中学3年生の10月までは、地元に進学するつもりでしたが、県外の高校へ行く人が多く、刺激を受けました。自分も県外へ出て色々な事を吸収したいと思い、県外進学を決め、情報収集を始めたところ、ニュースで「しまね留学」を知りました。島根県内の19ある高校から横田高校に興味を持ったのは、「奥出雲学」が面白そうだったからです。そこで、高校見学へ行き、先生方の対応も丁寧だったので進学を決めました。

奥出雲町であと2年半過ごしますが、どのように過ごしたいですか？

「奥出雲学」のような地域の課題を考える事が今までありませんでした。この授業で、地域の人に会い、米作りはもちろん、農作物の栽培など色々な事に愛情をもって取り組んでおられることに感銘を受けました。今後は、地域の人とさらに交流を深め、町のために恩返しをしたいと思います。



いとう ひろ
伊藤 大翔さん
(広島県東広島市出身1年生)

「地元の人との交流を深めていきたいです」



3 広報 奥出雲



2 広報 奥出雲